

令和7年度
第3回海田町まちづくり推進委員会議事録

【日時】2026年3月24日（火）10:00~12:00

【場所】海田町役場

【参加】（敬称略）

広島大学大学院先進理工系科学研究科教授	田中貴宏
広島大学大学院人間社会科学研究科名誉教授	
海田町教育委員会委員	林孝
広島工業大学工学部環境土木工学科准教授	今川朱美
海田町自治会連合会会長	神田一之
広島安芸商工会理事	富永浩司
日本労働組合総連合会西部地域協議会広島地区連絡会 事務局長	杉崎邦昭
広島県総務局経営企画チーム地方創生担当課長	小黒直樹
広島銀行海田支店支店長	高橋諭史
気象防災アドバイザー	勝丸恭子
まちづくりに関するアドバイザー（不動産貸付業者）	三澤正明
町長	竹野内啓佑
副町長	夏目啓一
教育長	森山真文
企画部長	脇本健二郎
総務部長	鶴岡靖三
町民生活部長	丹羽勤
福祉保健部長	森川雅枝
建設部長	木村生栄
教育次長	新藤正敏
企画部次長兼かいたブランド課長	吉本真人
企画部かいたブランド課係長	大西諒
企画部かいたブランド課主事	阿部夏希
株式会社船井総合研究所	
価値向上支援本部地方創生支援部	

リーダー
アソシエイト

関根祐貴
富樫優斗

【内容】

1. 開会

(1) 町長挨拶

(海田町長 竹野内様)

- ・大変お忙しい中、第3回まちづくり推進委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・また、日頃よりそれぞれのお立場から海田町行政にご協力いただいております。
- ・この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。
- ・これまでに2回、まちづくり推進委員会を開催させていただきました。
- ・目的として、第5次海田町総合計画の工期基本計画の策定に向けて議論をさせていただいたところでございます。
- ・皆様方から大変貴重なご意見、示唆に富んだご意見を多くいただきてまいりました。
- ・おかげをもちまして、12月議会において議決をいただき、来年度4月から後期基本計画がスタートさせていただくという運びとなりました。
- ・来年度は町制施行70周年という大変大きな節目を迎えます。
- ・海田町にとって非常に重要な年として、この後期基本計画も踏まえてヒューマンスケールなまちづくりをしていこうと思っております。
- ・人々に寄り添ったまちづくりをしていきたいという想いでこのヒューマンスケールのまちづくりという理念を掲げております。
- ・しっかり具現化できるように今後政策の展開をしていきたいと思っております。
- ・本日はそういったことも含めて皆様方にご説明をさせていただきますので、今後のまちづくりに向けて皆様方から忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。
- ・それではどうぞ本日はよろしくお願い申し上げます。

2. 議事

(1) 第5次海田町総合計画後期基本計画について

(2) 第5次海田町総合計画の今後の展開

I. 事務局説明

<本編及び概要版の説明>

- ・本編は表紙、裏表紙のデザインが完成した。
- ・本編 35 ページには本委員会の第 1・2 回での内容も掲載している。
- ・内容については、12 月議会をもって可決をいただいている。
- ・12 月議会での可決後、本編の内容に基づいて概要版を作成した。
- ・概要版は本委員会で初めてご提示するものなので、本日は概要版について説明する。
- ・スライド 6 ページ目には概要版本編ともにはじめに掲載している後期基本計画で目指す都市像、自分らしく暮らせるヒューマンスケールの街への思いを町長自ら記したものを記載している。
- ・掲載の写真は、本庁舎 1 階ロビーを一般開放し多くの人にとって第 3 の居場所であるサードプレイスとなっている特徴的なシーンを外から切り取ったものである。
- ・スライド 7 ページ目には概要版で、本町の特徴や強みをまとめたものを抜粋して記載している。
- ・まちづくり委員会や町長タウンミーティング、また議会全員協議会の場で海田町には良いところがたくさんあるがそれらが十分に伝えきれていない、わかりやすくまとめて伝えていくことが重要であるといったご意見を多くいただいた。
- ・これらの意見を踏まえて、概要版では本町の特徴についてインフォグラフィックを用いながら視覚的に分かりやすくなるようまとめた。
- ・本町の大きな強みである地の利を生かした交通の利便性についてもまとめている。
- ・スライド 8 ページ目にはウォークアブルな町の特徴として徒歩圏内で医療機関、スーパーマーケット、公的機関がまとまっているものを表した。
- ・スライド 9 ページ目には広島県で 2 番目面積の小さい町でありながら、山・川・海の自然もあり交通の要衝でもありバランスの取れた住みやすい街を示した。
- ・スライド 10 ページ目には航空写真により青色の基幹道路と緑色の今後の主なインフラによって整理したものを示している。
- ・連続立体交差事業や新駅誘致に向けた取り組み、学校の建て替え、広島南道路の建設など今後の本町において様々な投資が行われ、さらなる発展性があることを伝えるものとした。
- ・スライド 11 ページ目には海田町の様々な視点から本町の魅力の特徴的な数値を中心にまとめた。
- ・スライド 12 ページ目には住民アンケート調査結果をもとに全国平均と比較して高い定住意向や町への愛着度などをまとめた。
- ・スライド 13 ページ目には人口ビジョンを掲載した。
- ・全国的な少子高齢化トレンド、全国的な転出超過の波が押し寄せる中であるが、こうした波に抗うべく後期基本計画に基づく各種施策を展開することにより、今後 5 年間は人口増加を目指し、令和 12 年における総人口の目標値を国勢調査人口ベースで 3 万 600 人に設定をしております。

- ・スライド 14 ページには持続可能なための様々な取り組みをまとめた。
- ・子育て教育、ハード事業や歴史・文化、健康・福祉について順にまとめた。
- ・スライド 16 ページには施策の大綱ごとに基づく基本施策、重点施策をまとめた。
- ・本編・概要版ともに多くの写真を掲載しておりますが、ほとんどの写真はこのたびの計画策定にあたり町内で暮らし働く人々の日々のスポットを当て、町内ロケで撮影したものである。

<今後のプロモーションとブランディングについて>

- ・住みたい、住み続けたい、帰ってきたいまちのために今まで以上に住民満足度を向上させ、まちへの誇りと愛着を深めることが必要である。
- ・外部への人口流出を抑制するとともにまちの魅力や暮らしやすさを広く発信し新規の住民を呼び寄せ、活力ある流れを創出する。
- ・そのための重要な要素の一つがブランディングとプロモーションと捉えている。
- ・シビックプライドの醸成、まちへのブランディング、かいたブランドの浸透と定着を図るために、町制施行 70 周年を機に戦略的広報力の抜本強化に取り組む。
- ・プロモーションにあたっては、主に町外向けのアウトタープロモーション、町民向けのインナープロモーション、町職員向けのインターナルプロモーションに取り組む。
- ・まずは、今年度にブランドロゴメッセージを策定した。
- ・あなたらしいちょうどいい暮らしを海田町での思いを込めて「Kaitaful Days」とし、ブランドロゴをデザインした。
- ・ブランドロゴには街の魅力が中心にギュッと集まる集中線と海田に満ちる日々24時間の意味合いをかけている。
- ・色味については、海田町のベースカラーでもある日浦山グリーンと瀬野川ブルーを足して、ひまわり色で掛け合わせたターコイズ色で軽やかにだけど芯のある色とした。
- ・「Kaitaful Days」の full とはビューティフル、ワンダフル、カラフルを掛け合わせた造語である。
- ・次に町ホームページリニューアルである。
- ・ホームページは街の情報発信のゲートウェイ、玄関口としてターゲットへの訴求力のあるデザインや統一化のある内容になるよう刷新する。
- ・視覚的な見やすさを向上させ、より皆さんに目に留まるページ作りを行う。
- ・ブランドロゴメッセージや後期基本計画のデザインとも統一性を持たすようにする。
- ・次に広報紙のリニューアルである。
- ・町民アンケート結果においても広報紙は町民にとって町の情報入手の手段として No.1 に上がっている。
- ・手に取りたくなる、すぐに捨てられない、次の号が楽しみになるといった読み手視点で編集方針を整理し、来年度 5 月号から誌面を一新する。

- ・広島県の広報コンクール町村部門においては、本町は今年度含めて4年連続で県内最優秀賞を受賞している。
- ・今後は県内だけではなく全国コンクールで賞を目指したい。
- ・次に町長名刺のリニューアルである。
- ・町長自らトップセールスマンとなり、稼ぐ力を強化するにあたり、外で戦うにも武器がないと言われている。
- ・後期基本計画の概要版についても、まちの強みや魅力を知ってもらうための武器の一つになればとの思いで作成するとともに、その内容をぎゅっと名刺にも盛り込んでいる。
- ・次に今年度開催した職員向け広報研修会の紹介である。
- ・組織全体のブランドイメージの向上と情報発信力の強化を目指して、1回目は広島県のクリエイティブディレクターを招いて、2回目は本委員会の委員でもある勝丸様に講師を依頼した。
- ・伝えるプロである勝丸様から直接勝丸流の伝え方を学ぶことができ、受講した職員からもとても満足の声があった。
- ・次にパブリシティの強化としてプレスリリースの積極的な活用である。
- ・行政からの情報発信には、メディアを通じた広報活動は非常に効果的かつ重要である。
- ・その際、情報発信に統一感を持たせるためにフォーマットを統一し、できるだけメディアに興味を持ってもらえるよう工夫する。
- ・次に令和8年度予算の主要事業である。
- ・後期基本計画スタートの年度であり、後期基本計画に掲げる「ヒューマンスケールのまち」を目指し、各事業に取り組む。
- ・「まちのにぎわいづくり」のメインとして、町制施行70周年記念事業にも取り組む。
- ・施策体系別の主要事業では、誇りと愛着のほか後期基本計画での5つの視点ごとにまとめている。
- ・誇りと愛着の主要事業ではこれまで紹介した事業のほか、役場庁舎跡地のにぎわい促進事業等にも取り組む。
- ・次に町制施行70周年記念事業である。
- ・これまで説明の通り、まちの誇りと愛着、シビックプライドの醸成に取り組むにあたって町制施行70周年記念事業を大きな契機とする。
- ・本事業を行政主体の単なる式典や一過性のイベントに終わらせないように、国の地域未来交付金を活用したシティプロモーション事業として位置づけている。
- ・実施にあたっては、町内の各種団体の代表からなる実行委員会を立ち上げ、官民一体で祝祭を盛り上げる。
- ・メインイベント実施のほか一年を通じたにぎわいづくり、町制施行70周年記念に絡めた発信力の強化についても取り組む。
- ・次に町制施行70周年記念ロゴである。

- ・使用例として、町制施行 70 周年関連広報物や記念品等への刷り込み、ホームページや SNS などで活用していく予定である。
- ・次に町民アイデア募集の紹介である。
- ・町制施行 70 周年を迎えるにあたり、この節目を単なるお祝いではなく町民の皆さんがこんなイベントがあったらいいな、こんなことがやりたいを形にするためアイデアを募集した。
- ・応募は、専用フォームによる電子回答と公共施設でのアイデア箱への用紙投函により受け付けた。
- ・いただいたアイデア全てを叶えることは困難だが、実行委員会にて検討しできるだけ多くの夢を叶えることができるよう取り組む予定である。
- ・次に年間スケジュールの仮イメージである。
- ・調整施行日は 9 月 30 日ではありますが、その前後はまだまだ暑く大雨も多いため、メインイベントの開催は 11 月 1 日としている。
- ・また、関連イベントとしてテーマに応じた 4 つのフェスを主催により開催する。
- ・その他地域連携として、町制施行 70 周年応援金により地域主催のイベントと連携、町民アイデアの実現を図り、年間を通じてにぎわいを創出する。
- ・またそこで生まれた新しい仕組みアイデアは、次年度以降でもつなげていくことを想定している。
- ・次にメインイベントの仮イメージ案である。
- ・メイン会場を海田小学校としてメインステージを設けて、役場庁舎をサテライト会場として双方に飲食ブースを設けて回遊促進を図る。
- ・プログラム等の具体は今後実行委員にて詳細を決定していく予定である。
- ・次に町制施行 70 周年記念のプロモーションの仮イメージ案です。
- ・特設のウェブサイトも設けて効果的な発信に取り組む。
- ・また、アウトプロモーションの一環として、中吊り広告や海田町の様々なストーリーを SNS に投稿するとともにウェブサイトにもリンクさせ、コンテンツの充実を図る。
- ・これらの施策を通じて、「海田町、ちょっと変わり始めたぞ」と町の内外から言ってもらえるよう町を PR し定住人口・関係人口の増加などポジティブな効果が波及していければと考えている。

II. 意見交換

(広島工業大学 今川様)

- ・ブランドロゴについて、一部にベースカラーとなる色（川の色、ひまわりの色）も追加した方が海田町の特性を表せるのではないかと。
- ・「なんだこの色」と見て思った人が、「ああ、海田町の色だったんだ」とわかるような誘導されると効果的に感じた。

- ・海田町民のストーリーについて、町制施行 70 周年にかけて 60 ではなく 70 のストーリーとした方が良い。

- ・その他周年事業も 70 にかけて事業展開をするべきだ。

(事務局 吉本)

- ・ブランドロゴは広報誌でその意味を周知させていきたい。

- ・町制施行 70 周年事業は 70 にかけて展開することはおっしゃる通りなので、今後実行委員も含めて検討していきたい。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・SNS での発信について、事業で使用する写真は職員が撮影するのかプロの外部人材にお願いするのかどちらなのか。

(事務局 吉本)

- ・写真素材については、委託事業者がデザイン系の会社なのでプロが撮影したものと職員が内部目線で撮影した素材をミックスして使用したいと考えている。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・職員研修で写真の撮り方を習得できれば、事業コストを抑えられるのではないかと

- ・また、ウェブサイトリニューアルについて、ブランドメッセージだけの発信では検索者には届きにくい可能性がある。

- ・「海田町」と検索した際にブランドメッセージに引っかかるような導線設計が必要だと感じた。

(事務局 吉本)

- ・写真については、職員の写真レベルの引き上げは進めていきたい。

- ・ウェブサイトについても初めて見る人にも届くような設計にしていきたい。

- ・今後はブランドロゴメッセージが定着浸透して、見ただけで海田町とイメージが紐づくところを目指したい。

(広島工業大学 今川様)

- ・SNS の投稿内容について、町職員からの投稿だけではなく、町内の高校生などからハッシュタグなどを付けて自発的に投稿していく仕組みも必要だと感じた。

- ・例えば、役場 1 階にコップ一杯の水を渡してあげて、その様子を発信するように促すことも良いと思う。

(事務局 吉本)

- ・ブランドロゴメッセージの浸透の観点から、町民の力も借りながら SNS 発信での工夫は検討していきたい。

(気象防災アドバイザー 勝丸様)

- ・HP のリニューアルについて、見やすくおしゃれに改装することに追加して、必要な情報を見つけやすい設計にしていきたい。

- ・暮らしや防災など探している情報にすぐにアクセスできるような使いやすさという観点

も加えていただきたい。

(事務局 吉本)

- ・使いやすさの観点も追加させていただく。

(広島銀行海田支店支店長 高橋様)

- ・SNS普及について、事例として広島銀行が自社アプリを浸透させていく際に営業終了後の店舗シャッターに二次元コードを記載して、周知浸透を図っていた。
- ・事例を活用して、高校の下駄箱や活用できるスペースに二次元コードを掲載する等の工夫を加えていただけると良いと感じた。
- ・実行委員の構成員について、業種だけではなく年齢の若い層も構成員に加えて様々な発想を取り入れて推進していくのが良いと感じた。
- ・また、事業資金の調達についての算段はついているのか。
- ・広島県では県立美術館の改修をクラウドファンディングで資金調達を行い、資金提供者に対して美術館の普及を行った。

(事務局 吉本)

- ・SNS普及については良いアイデアだと感じたため、検討させていただきたい。
- ・実行委員の構成員については文化スポーツ協会の代表や商工会だけでなく、青年部の方など若い人の力を借りながら盛り上げていきたいと考えている。
- ・資金調達については、国の交付金や地域未来交付金を特例財源として確保することを想定している。
- ・いただいたご意見から、資金調達だけでなくその後の普及にも役立つということからクラウドファンディング等の手法も検討していきたい。

(海田町教育委員会委員 林様)

- ・町制施行70周年事業について、一つの機会であることから町内の小中学生が町のことを考えるような施策も検討させていただきたい。
- ・参加型のイベントとして自分の楽手をアピールする機会として、生涯学習の継続的な取り組みとしていけたら良いと感じた。

(事務局 吉本)

- ・現在、子ども議会という取り組みを行い、小中学生の生涯学習の機会創出を行っている。
- ・町制施行70周年事業に限らずに、町内の子どもが参加できるイベントは展開していきたい。
- ・町制施行70周年事業は現在町民からのアイデア募集を募っているため、すべては実現できなくとも様々な形でより多く実現していきたいと考えている。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・広報紙の配布方法の変更について、どのようなものを想定しているのか。

(事務局 吉本)

- ・現在は自治会への配布委託という形で配布しているが、自治会への負担と自治会に入っ

ていない人への配布をどうするかという課題があった。

- ・ただ、自治会によって配布委託が収入源になっている自治会もあり、続けたいという意向も確認した。
- ・そのため、自治会での配布委託は選択制として、実施手法を選択できるように変更する予定である。
- ・自治会の非会員に限らず町内全戸へ配布するという前提で、委託を受けない自治会には民間業者委託によってそのエリアへ配布を行う。
- ・せっかく広報紙をリニューアルするため、全ての町民に等しく届ける形でハイブリッド制として自治会選択制による全戸配布という形へ移行する。

(気象防災アドバイザー 勝丸様)

- ・プレスリリースに「海田町」と書いていない。パッと見て海田町とわかるようにすべき。
- ・ブランドロゴについて、調べるときに「Kaitaful Days」では調べないので「海田町」で検索する際に引っかかるような使い分けが必要である。

(事務局 吉本)

- ・発信の在り方についてはおっしゃる通りなので、反映させていただきたい。

(広島大学 田中様)

- ・総合計画は見られることが意識したものが完成している。

(3) 交付金の効果検証等について

I. 事務局説明

<物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金の実施状況及び効果検証について>

- ・第5次海田町総合計画及び海田町まちひとしごと創生総合戦略における令和6年度末時点の検証について説明する。
- ・本資料における内容は国の交付基準等に基づき交付金等の成果について検証し、外務委員のご意見を伺った上で、町ホームページで公表するものである。
- ・まずは、施策分野ごとの各施策の達成に向けた状況を評価について説明する。
- ・評価については令和5年度末現在の実績値と計画の最終年度である令和7年度目標値を比べ、5つの区分で施策の達成度合いを評価している。
- ・計画全体としては、成果指標の進捗状況のうち評価ができた指標について、達成順調、概ね順調が合わせて61.7%となっている。
- ・行動指標の総評は総合計画全体として達成順調、概ね順調が合わせて69.8%となっている。
- ・このような状況を踏まえて、引き続き各施策に取り組むとともに、達成状況がやや遅れとなっているものについては、後期計画においても関連施策に取り組む。
- ・次に令和6年度分の物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金の実施状況及び効果検証について説明する。

- ・資料には事業概要、実績、効果検証等をそれぞれ記載している。
- ・町長の公約に基づいて、おむつの無償化や子育て世帯に対する医療費助成等の事業を展開した。

<デジタル田園都市国家構想交付金の検証等について>

- ・デジタル田園都市国家構想交付金の検証においては4つの事業を実施した。
- ・1つ目はLINE および GIS 機能の拡張事業である。
- ・2つ目は新庁舎証明発行窓口の機能拡充事業である。
- ・3つ目は施設予約システムのオンライン化です。
- ・4つ目はノーコードツールによる職員によるアプリ開発です。
- ・関連資料として、海田町公式LINE や広報誌、その他証明書発行に対する住民アンケート結果を記載している。

II. 意見交換

(広島銀行海田支店支店長 高橋様)

- ・計画推進における子育て支援の充実について預かり保育利用者数が海田町の人口より多くなっている。
- ・延べ人数でのカウントではあるが外部からの利用者が多いことを示しているため、海田町の魅力の一つとして差別化することは可能なのではないか。

(福祉保健部長)

- ・預かり保育利用者数については近隣市町村との広域連携によって利用者が増えているところである。
- ・今後は更なる増加を目指してまわりプラザの改修等の取組を予定している。

(広島銀行海田支店支店長 高橋様)

- ・外部からの利用が増えている点については、居住地が少ないことも起因していることが考えられるため、海田町に住んでもらえるような住環境の整備にも施策を打っていく必要があると感じた。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・公開型 GIS について、投稿は町民と職員が投稿できるのか。

(建設部長)

- ・どちらも投稿は可能である。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・地図連携による情報を蓄積は良いと感じた。
- ・防災情報やまちづくり情報などに活用できると良い。
- ・現在の GIS へのアクセス方法はどのようなものがあるのか。

(建設部長)

- ・町 HP 内にある「かいたひまなび」からのアクセスと町公式 LINE の2つの方法からア

クセスできるようになっている。

(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)

- ・防災情報を知りたい人にはすぐにその情報にたどり着けるような利用者の目的に合わせた導線設計が必要だと感じた。
- ・導線が確保できると利用者も増え、蓄積される情報も増えていく。

(建設部長)

- ・今後の広がりに向けた方法については、いただいたご意見を参考に検討していきたい。

(広島安芸商工会理事 富永様)

- ・交付金について、どの交付においても対象者がそれぞれ申請して交付されているのか。

(福祉保健部長)

- ・各世帯、低所得者、影響を受けた生活者に対する交付金については該当者に対して交付している。
- ・子育て世帯への交付については、全ご家庭の保護者の方に子育て支援センターにて対面で交付した。

(広島安芸商工会理事 富永様)

- ・交付金事業については、交付のコストも大きくかかるため、健全な税金利用となるようにしていただきたい。
- ・昨今の物価高騰を鑑みた経済施策として進めていただきたい。

(事務局 吉本)

- ・交付金の取り組みについては経済政策の中で物価高騰と合わせて実質賃金の上昇が中長期的には目指す目標ではあるが、いまだ追いついていない手取りを増やすというところで短期的な施策、特に低所得者対策として展開していく。

(広島県 小黒様)

- ・交付金について、事業計画費と実績に乖離があるが施策の結果、必要な方には届いたが低所得者層となる対象母数が少なかったのが結果という認識で良いか。

(事務局 吉本)

- ・その認識で問題ない。
- ・予算不足にならないよう大きく予算を取っており、本来交付を受ける対象者には適切に支援を行っている。

4. その他

(海田町長 竹野内様)

- ・住宅供給が追い付いていない点について、突破口がほしいところだが民間及び行政からのアプローチとしてどのようなものが考えられるのかご意見を頂戴したい。

(広島銀行海田支店支店長 高橋様)

- ・海田町は立地の観点から良い場所を町有地として保有されている。

- ・小学校の中に図書館を作り、一般開放するなど効率的な施設利用の工夫は考えられる。
(まちづくりに関するアドバイザー 三澤様)
- ・人口増加に資する住宅の増加を狙うには、賃貸と購入の2つの方法しかない。
- ・購入については、容積率を上げて建蔽率を高めることが行政でできることである。
- ・町営住宅の運営は様々な自治体で移住者を獲得している実績があるので参考になるのではないか。
- ・リース手法含めて土地を手放さずに移住希望者を囲い込んでいくことが望ましい。
(海田町長 竹野内様)
- ・公営住宅は法律の縛りもある中でやっていく必要はあるが、お試し住宅等から移住につなげるアプローチは重要な手法だと感じた。
- ・海田市駅の北側は広島県の方で立体交差事業を実施予定であるため、県事業と連携しながら我々にもできるアプローチを進めることが必要だと考えている。

(3) 閉会

(広島大学大学院 田中委員長)

- ・本議題をもって、本日の委員会は終了とさせていただきます。
- ・皆様ご参加いただきありがとうございました。

≪配布資料≫

(1) 第5次海田町総合計画後期基本計画について

(2) 第5次海田町総合計画の今後の展開

【資料1】第3回海田町まちづくり推進委員会説明用資料

【資料2】第5次海田町総合計画後期基本計画（概要版）

【資料3】第5次海田町総合計画後期基本計画

【資料4】第5次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の
令和6年度末時点の検証について

(3) 交付金の効果検証等について

・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の実施状況及び効果検証について

・デジタル田園都市国家構想交付金の検証等について

【資料5】物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の実施状況及び効果検証について

【資料6】デジタル田園都市国家構想交付金の検証等について